

J A M雇用調整助成金要請に関する質疑

大臣から重要な答弁引き出す

J A Mは、雇用調整助成金制度の見直し等に関する署名を、3月11日に田村厚生労働大臣に提出し、これと併せて3つの項目を大臣に要請しました。(政策ニュース17号参照)

3月25日、参議院厚生労働委員会で、津田弥太郎議員がこの要請事項等についての質疑を行い、田村大臣から重要な答弁を引き出すことができました。

雇用調整助成金の機能・役割について

【津田議員】製造業は非常に景気変動の影響を受けやすい産業で、しかも熟練労働者が必要であるということになると、どうしても雇用調整助成金制度というのは大変重要になってきます。大臣、雇用調整助成金の有する機能はどういうものだとお考えですか。

【田村大臣】経済の激変や様々な状況において、雇用の安定という意味で重要な施策だと認識しています。

【津田議員】私の出身母体 J A Mでは署名活動を行い大臣に対し3点の要請を行いました。それについて確認させていただきます。

要請 1.

制度見直しによる影響について、中小企業の状況等を十分に把握し、その影響を検証した上で必要な対応をはかること。

【津田議員】いつ頃、具体的にどのような方法で状況把握を考えていますか。

【岡崎職安局長】 昨年の12月からリーマン・ショック前の基準に戻しているの、概ね半年くらい経った段階で、雇用調整助成金を使っているところ・いないところ、どのような雇用継続になっているかどうか等の状況を見ながら分析していきたいと考えています。

【津田議員】 そのような状況把握と影響の検証を行った上で、必要な対応を図るということ、大臣、確約していただけますか。

【田村大臣】 影響等をしっかりと検討し、その状況を見て、必要があれば対応させていただく。

要請 2.

景気変動等により、事業活動へ影響が出るのが予想されるときは、速やかに制度の要件緩和と拡充を行う等の柔軟な対応をはかること。

【津田議員】 中小の製造業は極めて景気の影響を受けやすいという特性を有しています。これは肝となる部分です。大臣、決意をお願いします。

【田村大臣】 激変状況が起こった場合は機動的に動かなければならないと考えています。その時にはリーマン・ショック時のような要件緩和もしっかりと検討していかなければなりませんし、補正予算等で対応していかなければならないと考えています。

要請 3.

急な景気変動時にも、対応がはかれるよう十分な財源を確保すること。

【津田議員】先立つものがなければ対応は大変難しいわけで、これまでも時限措置として失業等給付からの借入れを行いました。このような過去の経験を踏まえて、必要な財源確保ということについても一度大臣の答弁をお願いします。

【田村大臣】何かあった時にはしっかりと対応していかなければならないと思っています。

【津田議員】6,059筆の団体署名の内、労働組合が約5,000筆で、会社経営者の代表が約1,000筆含まれています。労使共に雇用調整助成金の果たす役割の重要性について認識をしているわけです。大臣におかれましても肝に銘じていただきたい。そのことを要請申し上げます。

雇用調整助成金から労働移動支援助成金に資金をシフトさせることについて

【津田議員】安倍政権になって、産業競争力会議、規制改革会議が「成熟産業から成長産業」というスローガンを極めて多用するようになりました。これに呼応するように、日本再興戦略では「雇用調整助成金から労働移動支援助成金に大胆に資金をシフトさせることにより、2015年までに予算規模を逆転させる」という文言が明記されました。私はここではっきりと言っておきたいです。厚生労働省においては、間違っ

ても労働移動というものを自己目的化しないでいただきたい。厚生労働省はあくまでも働く者の目線に立って考える役所ですから、当事者が転職を望んでいる、あるいはあと一步、踏ん切りがつかない、そのような状況におかれている場合には、労働移動を後押しすることはあるだろうと思います。少なくとも労働移動支援助成金を拡充するから雇用調整助成金は縮小するという、トレードオフの関係に立つことになれば大変なことです。大臣の見解はいかがでしょうか。

【田村大臣】雇用調整助成金は、当然景気が悪くなれば利用が増えるので、必要な分だけ予算計上しなければなりません。トレードオフということではないと思います。決して本人が望んでいないのに無理やり国が労働移動をしろうというわけではあません。企業の都合で余儀なく離職をせざるを得ない方々に対して、次の職に就くための様々な対応をするという類のものです。我々は、不必要なリストラをどんどん企業に進めるような類の助成金ではないという認識の下でしっかりと対応してまいりたい。

【津田議員】大変重要な発言を大臣にいただきました。しかし、労働移支援助成金は予算が2012年と比べて100倍を超えた金額になっています。「これを使わなければならない」という思いになってもらっては困ります。必要な時に使うということであって、余らせてもいいですから、しっかりそのような観点で臨んでいただきたい。